



***Aquilaria sinensis* (Lour.) Spreng.**

ジンチョウゲ科 (Thymelaeaceae)



中国、台湾に分布する常緑高木で高さ30mに達します。ジンコウ (*A. agallocha* Roxb.) または、その他同属植物の材、特にその辺材の材質中に黒色の樹脂が沈着したものを生薬「ジンコウ (沈香)」と称し、その中でも良質なものを「キアラ (伽羅)」と称します。いずれも、その樹脂には精油成分であるベンジルアセトン、メトキシベンジルアセトン、テルペンアルコールなどを含み、一般漢方製剤294処方の丁香柿蒂湯 (ちようこうしていとう)、喘四君子湯 (ぜんしくんしとう) の2種の処方に配合されています。本種の原木は軽いのですが、樹脂が沈着した部分は重く、水に沈むため、これが名の由来となっています。樹齢30年を経過しないと樹脂の沈着が起こらず、さらに100年以上を経過して良質の沈香素材となります。東大寺正倉院にある蘭奢待 (らんじゃたい) として著名です。





***Boswellia sacra* Flück.**

カンラン科 (Burseraceae)



生薬名: ニュウコウ(乳香) 薬用部位: 樹脂

アラビア半島からトルコにかけて分布する常緑小高木で、枝を真横に伸長させるのが特徴で乾燥地帯に多く見られます。本種の樹皮に傷をつけ、数日後、固まった芳香性ゴム樹脂を生薬「ニュウコウ(乳香)」と称し、 β -ボスウェル酸などを含み鎮痛^{※1}、消炎^{※1}作用などがあります。一般漢方製剤294処方のうち「丁香柿蒂湯(ちょうこうしていとう)」のみに配合されます。本種は没薬(*Commiphora myrrha*)とともに、エジプトでは防腐効果を期待してミイラ作りに用いられました。また、最古の香料としても知られ、ハーブ名は「フランキンセンス」と称して、芳香成分ピネンを含み木製の甘い香りの中に、レモンの様な染み透る芳香を放ち寺院などで薫香料としても使用されます。



※1 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑(下). 大阪, 株式会社保育社. 1980, 521p.



Synsepalum dulcificum (Schumach. & Thonn.) Daniell

アカテツ科 (Sapotaceae)



西アフリカ沿岸部に自生する常緑低木でグミのような赤い実をつけます。この実はミラクリンという味覚修飾物質を持ち、すっぱいものを甘く感じさせる効果があることから、別名「ミラクルベリー」とも呼ばれています。現地では昔からすっぱい発酵パンやヤシ酒を食べやすくするために用いられていました。熱帯性の植物で非常に温暖な気候を好み、最低10℃を下回る環境では枯れてしまいます。生長は遅く、1年で5～6cmしか伸びません。自家結実性なので一本で結実します。現在、品種などの区別は特にされていませんが、小葉タイプと大葉タイプがあり、前者は縦に伸びやすく、後者は横に広がりやすい性質があります。どちらも果実自体の性質には変わりはないです。最近、大きな実をつけるタイプもあるようです。

